
冬と君

マスカレードF

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬と君

【Nコード】

N98590

【作者名】

マスカレードF

【あらすじ】

毎日来てくれるのは、君だけ

きつと帰ってくるから

そう言って笑ったから、私はあの人を見送ったんだよ

本当は泣きたかったけど、堪えて

引き止めたかったけど、いつてらっしゃって笑って

ずっとずっと待ってるねって約束したんだ

「で、今もずっとアイツを待ってるってわけ？」

「いつまで目を逸らし続けるつもり？」

「見たいものしか見ないなんて、我侭な女」

「そろそろ、現実を見ろよ」

「アンタ、本当に馬鹿」

彼の隣に知らない女性、間に小さな子供
溢れる笑顔に明るい日差し

君が私に見せる、不愉快な写真

「他人の空似」って言葉知らないの？

馬鹿なのは君の方

君、彼と友達だったくせに、わかんないの？

これは別人

似てるだけの他人

君が写真をしつこく見せる度、繰り返す言葉

言い返す君の言葉はどんどん意地悪くなっていく

私はもう飽き飽きなのに、君はしつこい

いつも最後は君が溜息を吐いて終わる

もう来なければいいのに

そんな苛々した顔して、毎日毎日

誰もが私に優しいここで、君だけがいつも厳しい

「また来るよ」

頼んでないのに、いつもそういつて席を立つ

ドアを開ける寸前、思い出したように振り返るのもいつものこと
「ああ、そうだ。なにか、欲しいものがあるなら次来るとき持ってきて来るけど?」

そっけなく聞いてくる内容もいつも通り

きちんと着こなした上等のスーツ

忙しくない筈がないのに、毎日ここを訪れる

「別に、なにも」

と答えれば、君はいつも少し目を伏せるから

たまには

いつも同じ話を、嫌そうな顔しながらでも、聞いてくれるから
少しは外の事に興味をもったふりでも、してあげようか

「スイカが食べたい」

君は少し驚いた顔をして私を見つめて

「やっぱりアンタ、我俥」

って嬉しそうに笑って、外界へと消えていった

季節外れの要望を、きつと君は叶えてくれる

目を閉じて、一夜待てば目の前に極上のスイカが用意されている
だろう

そつと目を閉じて、

また、あの人の帰りを待つ

（後書き）

切ない系の練習です。

これは小説と呼べるものなのだろうか（＾－＾；）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9859o/>

冬と君

2010年11月19日07時48分発行